

I B 教育における国語科授業に関する総合的研究

◎中村 純子（東京学芸大学日本語・日本文学講座国語科教育分野）

○浅井 悦代（東京学芸大学附属国際中等教育学校国語科）

代表者連絡先：sumicon@u-gakugei.ac.jp

【キーワード】 国語科 国際バカロレア MYP「言語と文学」 概念理解

1 本研究の目的

本研究の第一期プロジェクトでは、「国際バカロレア（以下、IB）教育における国語科授業とアクティブラーニング（AL）に関する総合的研究」をテーマに、Diploma Program（以下、DP）、Middle Year Program（以下、MYP）を中心に IB 教育における授業デザインの方法や AL の授業方法の効果について分析を行った。2 年目は、AL による国語科授業を实践できる教員養成を目標に中等国語科教育法での実践を検証した。また、IB 国語研究会と定期的に開催し、近隣の IB 校から講師を招き、DP の指導の実際や、MYP「言語と文学」のカリキュラム構造と評価についての知見を広めた。

第二期のプロジェクト研究は「IB 教育における国語科授業に関する総合的研究」をテーマに、Primary Years Program（以下、PYP）から MYP、DP までを通しての授業実践事例の収集から IB の目指す「概念理解」の指導方法を追究する。特に、12 年間のプログラムの中核となる MYP「言語と文学」に焦点をあて、プログラムの基礎理論についての探究と指導事例の収集にあたる。これらの研究の成果は、IB 校だけでなく、一条校での新しい国語実践の一助とするために、出版を視野に入れ、発表することを目標に掲げた。

2 本プロジェクトの実施内容

2-1 授業実践事例の収集

(1) ぐんま国際アカデミー高等部における IB DP 日本語 A の授業実践の紹介

講師：樋口さやか（ぐんま国際アカデミー中高等部）

野村春佳（ぐんま国際アカデミー中高等部）

日時：2017 年 6 月 25 日（日） 14：30～17：30

会場：東京学芸大学 S103 教室

DP「文学」三島由紀夫の『近代能楽集』の授業では、DVD で舞台作品を視聴し、朗読劇に取り組みさせた。原典の能との比較についてのディスカッションから小論文を書かせ、個人口述試験に備えた。また、CAS の活動として、作品の映像化を試みた。DP「言語と文学」では、政治家のスピーチを「性別と言語」の関係から分析する実践報告がなされた。

(2) IB DP 日本語 A 文学コースのパリ国際学校における実践

講師：石村清則（International School of Paris）

日時：2017 年 7 月 16 日（日） 14：00～17：30

会場：東京学芸大学附属国際中等教育学校

教材テキストを用いて、最終課題に向けての具体的な指導方略が提示された。

- ・使用文学作品の選択及び指導方法。
- ・パート別、試験別にどのような対策を立てて、どのように実践指導していくのか
- ・パート 1 の世界文学に関する Written Assignment の指導方法（カミュ『異邦人』）
- ・パート 3 のエッセイを書くための作品指導方法（安部公房『砂の女』）
- ・詩のコメンタリーの指導方法（吉行理恵「青い部屋」）

(3) TOK と文学

講師：小澤大心（アオバジャパン・インターナショナルスクール）

日時：2017年10月7日（土） 14:00～17:00

会場：東京学芸大学附属国際中等教育学校 E棟

TOK(Theory of Knowledge: 知の理論)は、DPにおいて中核となるもので、Critical Thinking (批判的思考)を体系的に培う科目である。「知るとは何か? 知識とは何か?」を知の探究の柱に据えた TOK の特性の解説と、その視点に立った上で文学における質の深い学びを促す授業の手立てについて提案いただいた。

(4) 教科横断的な学びについて (文学研究者の立場から)

講師：鷺山 恭彦 氏 (元東京学芸大学学長・名誉教授)

日時：2017年12月23日（土） 09:30～11:30

会場：東京学芸大学 C棟102教室

ゲーテやブレヒトの作品を取り上げ、歴史的コンテキストや現代の社会情勢に結び付け、学問として文学を探究し、世界を問い直すための知のあり方や問いの立て方の重要性を論じた。知の枠組みを問い直し再構築する TOK の重要性を強調した。

(5) MYP 授業実践の紹介 (グローバル化と古典～『枕草子』から今と未来を考える～)

講師：熊澤ほづみ (加藤学園暁秀中学校・高等学校)

日時：2018年1月21日（日） 15:00～17:30

会場：東京学芸大学 人文2号館 第1演習室

中学2年生の『枕草子』のユニットで、清少納言の季節感と現代の学習者の季節感の差異を比較分析させていた。日本の伝統な季節感が失われつつあることに気づかせ、「グローバルな文脈」に照らし、SDGs (持続可能な開発目標)に関連付け、未来へ継承していきたい日本文化についての動画制作に取り組ませていた。

(6) DP につなげる MYP 授業実践～魯迅『故郷』～

講師：中村純子 (東京学芸大学 国語科教育分野 准教授)

日時：2018年2月18日（日） 15:00～17:30

会場：東京学芸大学 小金井キャンパス S棟 1階 101教室

魯迅の『故郷』が国語科教科書で定番教材となった経緯や指導目標の変遷を戦後の国語教育史に照らして解説した。さらに、本作品を MYP の「グローバルな文脈」に関連付けた実践として、発表者が公立中学校で行った中国の近現代史を踏まえた読解の実践と、山田浩美教諭 (NIST、バンコク)による主題の解釈を映画トレーラーで表現した実践を紹介した。

(7) IB は日本の国語教育改革のトリガーになりうるか?

講師：大迫弘和 (武蔵野大学 教授)

日時：2018年3月11日（日） 午後2時00分～4時00分

場所：東京学芸大学教職大学院 1階 講義室

2013年にスタートした『IB200校プロジェクト』や、2018年に解説された文部科学省の IB コンソーシアムなどの、国内の動向を伺った。日本の新学習指導要領の改訂でも、主体的対話的深い学びを促す探求型の授業が目指されており、学習者主体の授業において教師は学びを促すファシリテーターとしての役割が期待されている。この方向性は IB と合致しており、IB プログラムが日本の新しい教育の牽引役となることが期待されている。

(8) 『源氏物語』若菜上巻の女三の宮降嫁について

講師：第一部 河添房江 (東京学芸大学)

第二部 高橋七浦子 (大阪女学院高等学校)

日時：2018年6月17日（日） 10:00～15:30

会場：東京学芸大学 人文2号館 第一演習室

第一部 講演

『源氏物語』の若菜上巻における女三の宮の降嫁の特殊性と紫の上の地位が不安定に変化する点について、女三の宮の婿選びと裳着の特異さ、源氏の四十賀から当時の四十歳の感覚、紫

の上の地位にかかわる呼称の変化など、歴史的背景を踏まえ、講義いただいた。

第二部 実践発表

大坂女学院高等学校では2年生の1・2学期を通じて、源氏物語に取り組んでいる。授業の導入として扱う漫画や映画、参考文献、ミュージアムなどの紹介と古典文法の指導方法を紹介された。DP「文学」パート2として、登場人物についての探究を促すディスカッションについて提示された。

(10) IB 国語研究会サマーセミナー：DP「文学」実践発表

日時：2018年7月15日(日)・16日(月・祝) 09:00～17:00

会場：東京学芸大学 15日…C棟204教室 16日…S棟106教室

海外のインターナショナルスクールや国内のIB認定校、一条校の先生方をお招きし、DP「文学」の実践発表会を行った。参加者は国内国外の学校教諭の他、IB教員養成コースの他大学の院生など、延べ84名に上った。発表は以下のとおりである。

第一日目

- ① 「グラフィックノベルのレトリックとその効果—世界文学リストより」
赤川ギルブレスなお (ベトナム：United Nations International School of Hanoi)
- ② 古屋めぐみ タイ：Ruamrudee International School
「セルフトートにおける Google Classroom と Google Drive の活用」
- ③ 津村美穂 シンガポール：Singapore International School
「パート2 「奥の細道」 指導方略」
- ④ 井上志音 日本：灘高等学校
「比較教材を用いた推論力の育成」
- ⑤ 野村康代 日本：立命館宇治高等学校
「一条校でIB Japaneseの視点を取り入れることの可能性」
- ⑥ 関康平 日本：開智日本橋学園中学校
「MYP 指導の方略」

第二日目

- ⑦ 飯島美佐 インドネシア：Jakarta Intercultural School Indonesia
「IBのクラスの指導で活用する Google Classroom と Google Drive」
- ⑧ 沖中 文美子 ドイツ：Frankfurt International School
「作品解釈に必須の分析と思考の型」
- ⑨ 柳洋子 日本：広島インターナショナルスク
「生徒の好奇心を刺激する文学教育～『雨月物語』を用いて」
- ⑩ 福田絵里 スイス・インターナショナルスクール
「Part4 グラフィックノベルや古典のプレゼンテーション」
「Paper2、本試験への準備の仕方」
- ⑪ 中村純子 日本：東京学芸大学
「視覚スキルを育む指導の方略 カフカ『田舎医者』アニメ映画の活用」
- ⑫ 石村清則 フランス：パリ・インターナショナルスクール
「DP：文学」の指導方略

(11) PYP カリキュラムと探求のユニット

日時：2018年8月18日(土) 14:00～17:30

会場：東京学芸大学附属大泉小学校

実践発表「新教科『探究科』の創設—3年生実践『大泉のハチは大泉のしあわせを運ぶ』」

発表者：上田真也 (東京学芸大学附属大泉小学校)

ワークショップ「PYPカリキュラムの理解を育む保護者向けワークショップ」

ファシリテーター：齋藤真実 (聖ヨゼフ学園小学校 PYPコーディネーター)

秋吉梨恵子 (聖ヨゼフ学園小学校)

講評：細川太輔 (東京学芸大学 准教授)

東京学芸大学附属大泉小学校で開発している『探究科』は理科と社会と生活科を統合した教科である。3年生の授業では、地元の養蜂家と洋菓子屋に取材し、地産地消について学習した。

学習成果の発表では児童のアイデアで保護者に蜂蜜を使ったお菓子をふるまった。IB・PYPであれば探求テーマは「人間は自然を活用してよりよいコミュニティを形成する。」といったように固有名詞を使わずに普遍的で汎用性のある内容にすべきとの指摘があった。

ワークショップでは、グループワークで創作漢字を作り、演劇で表現するワークを行った。活動の振り返りを通して PYP カリキュラムについての解説が行われた。

(12) 『PYPのための移行ガイド』について

講師：原田祥子（開智のぞみ小学校 IB コーディネーター）

日時：2019年3月23日（土） 14:00～17:00

場所：東京学芸大学附属大泉小学校

2019年にIBでは、PYPの新カリキュラムが発表された。「PYPのための移行ガイド」で打ち出された「Agency」の探究活動への組み込み方と1年生の「家は環境によって異なる。」というセントラルアイデアに基づくユニットの実践が紹介された。

2-2 MYP「言語と文学」理論と実践の書籍出版

IBのカリキュラムでは汎用でき転移可能な概念の理解を促すことを主軸としている。概念は多義的で多くの側面と定義を持つ抽象的な考え方である。教科を横断して知識や理解を相互に結びつけるものである。PYPでは8項目の重要概念を、MYPでは教科を横断した16の重要概念と教科の専門性に応じた関連概念を8項目ずつ設定している。DPでは、2019年の改訂で、「言語A」の「文学」「言語と文学」にMYPの関連概念を発展させた7項目が設定された。このことから、MYPのカリキュラムが概念理解の中核として位置づけられていることがわかる。そこで、2018年8月からMYP「言語と文学」の研究に着手し、その成果を2019年5月に出版した。

『「探究」と「概念」で学びが変わる！ 中学校国語科 国際バカロレアの授業づくり（国語教育選書）』（136ページ） 明治図書出版 2019年5月23日発行 2484円

ISBN-10: 4182324358 ISBN-13: 978-4182324352

本書の「第1章 基礎理論編」では、国債バカロレアの全カリキュラムに共通する基本理念と指導方法、学習方法などを解説した。「第2章 授業設計編」ではMYP「言語と文学」のユニットを構成する要素となる「重要概念、関連概念、グローバルな文脈、探求テーマ、探求の問い」を分かり易く説明した。「第3章 学習活動編」では学習者の主体的な活動を促す学びの手法を提示した。「第4章 評価方法編」では、実際の課題を例に「総括的評価、形成的評価、評価規準、パフォーマンス課題に対する評価、ルーブリック」のやり方を提示した。「第5章 授業実践編」では海外のインターナショナルスクールから5名と国内のMYP校から1名の先生方に実践紹介をしていただいた。このように多彩な執筆陣を迎えることができたのも2期にわたる本プロジェクト研究の成果と言えよう。

また、本書はMYP校だけではなく一条校の国語科教諭にも新たな授業を開発するためのヒントとして活用してもらえることを想定している。

5 研究の成果 今後の課題と提言

第1期、第2期と4年間の研究を通して、DP、MYP、PYPの授業実践の実態が明らかになると同時に、発達段階に応じて概念理解を促進するIBカリキュラムの全体像を把握することができた。

また、IB校の教師は実践事例を交流し共に学び合える場を強く求めていることが明らかとなった。国際バカロレア機構のカテゴリー1、2レベルの研修ではカリキュラムの解説や最終課題の対策が中心で、授業実践について触れられない。IB国語研究会では、国内では関西圏のIB校や、イギリス、中国など海外のインターナショナルスクールから多数の参加者があった。

本活動を通じて形成された人的ネットワークは、2019年度より本学教職大学院で始まったIB教員養成コースや2020年度より始まる本学の国際バカロレア入試に対して、大変有意義なものとなろう。IB国語研究会の活動は今後も継続していく所存である。